

## 中部圏内におけるヘマトキシリン・エオジン染色の標準化に向けたアンケート結果

◎ 柚木 浩良<sup>1)</sup>、中根 生弥<sup>2)</sup>

公益社団法人愛知県臨床検査技師会 病理細胞検査研究班（公立陶生病院）<sup>1)</sup>、公益社団法人愛知県臨床検査技師会（JA 愛知厚生連 豊田厚生病院）<sup>2)</sup>

【はじめに】 HE 染色は施設により染色性によりかなりばらつきがある。中部圏におけるヘマトキシリン・エオジン染色（以下 HE 染色）の標準化に向けた状況把握のため、公益社団法人愛知県臨床検査技師会精度管理事業で得られたデータ（平成 28 年度分、平成 29 年度分）を使用し、色合いのアンケートを実施したので結果を報告する。

【方法】 中部圏（石川、富山、岐阜、三重、愛知、静岡県）の病理技師、病理医を対象に精度管理調査で得られた標本画像（段階的に用意した色調の違う標本画像①～⑧）を使い、好みの色合いを評価してもらった。

【結果】 アンケート集計の結果より、1. 自施設の技師間差、病理医間差 2. 技師、病理医全体の間差 3. 全体で最も選択された色合いについて判明した。画像とともに発表時にお示しする。

【考察】 自施設の間差は個人差でもあり、4 割の施設で統一がなされていなかった。技師と医師の好みに色合い違いも若干ズレがあるように思えた。全体で見ると、選ばれなかった色合いはレアケースとして認識でき、好みの色合いの範囲も判明した。

【まとめ】 安定した組織診断のために、施設によるばらつきを解消し、どこでだれが診ても再現性のある同質の標本を提供することが染色性の標準化につながる。そのためには病理医の協力を仰ぎつつ、技師側から標準となる標本を提案することにより、抜本的な改

革をすることが効果的な方法である。中部圏内における HE 染色の標準化に向けての一助になればと考える。

連絡先 0561-86-0567